

43

熊本県

JA直接輸出への挑戦 ～KSMT台湾進出～

J A熊本経済連

わたなべ
渡邊

まさし
将司

J A 直接輸出への挑戦 ～ K S M T 台湾進出～

熊本 ストロベリー マジで 台湾へ



J A 熊本経済連 総合営業課 渡邊 将司

1. 現状①

国内の食料市場と農業の現状



安い

売れない

経営が厳しい

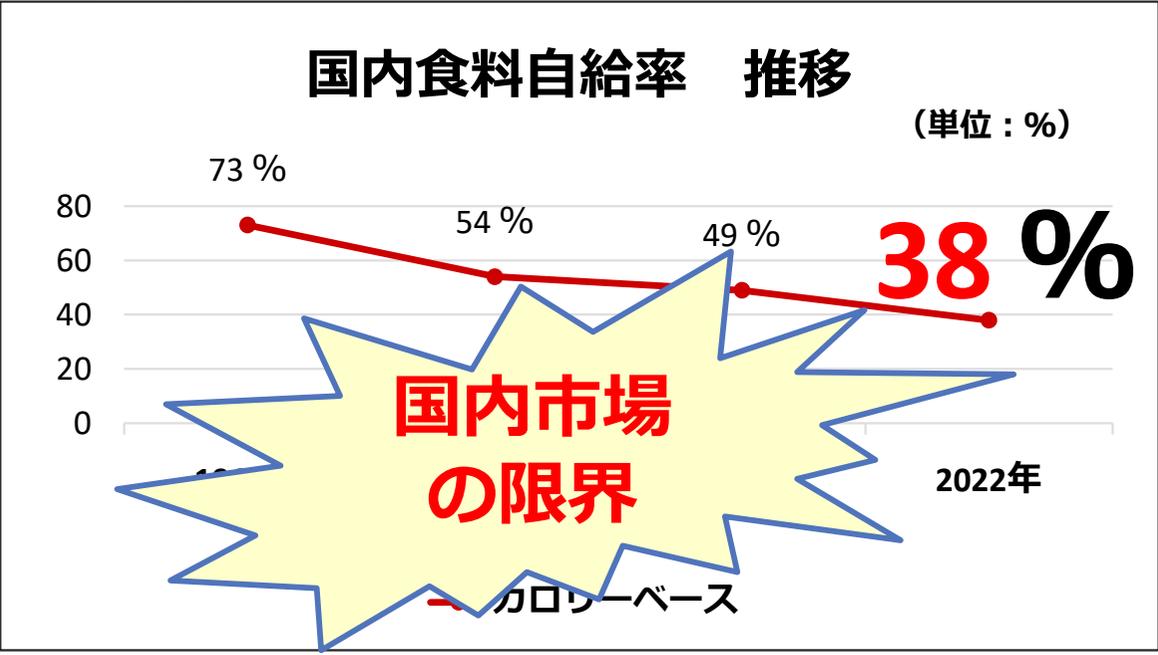
跡継ぎいない



農家減少

もし輸入品がストップしたら？

人口減少 高齢化 輸入品増



出典：農林水産省ホームページ 食料自給率の推移

未来の食料確保が不安

2. 現状②

世界の飲食料市場規模と食品輸出の現状



世界の飲食料市場規模

● 世界人口増加



世界の食料需要は**増加**

2015年：890兆円



2030年：**1,360兆円**

農林水産物食品輸出額



4.497億

1兆4,148億円

2030年には
5兆円を目指す

2012年

2017年

2022年

■ 農産物 ■ 林・水産物 ■ その他

出典：農林水産省ホームページ

農業の未来のためにJAグループはどうする？

縮小する国内市場⇒拡大する世界市場
農畜産物輸出拡大



どうすれば
輸出できる？

3. J Aグループの輸出拡大のためには～課題と解決策～



J Aグループの輸出の取り組み現状と課題

(1) 流通

国内輸出商社を介した**間接輸出**

デメリット

- ① **国内取引**のため、**価格メリット**が出しにくい
- ② 海外バイヤーと直接交渉ができないため**関係性が希薄**

(2) 生産

国内流通向けの**生産**

デメリット

- ① 海外の**ニーズ**に合っていない
- ② 農薬基準などの**海外の規制**に沿えず輸出不可

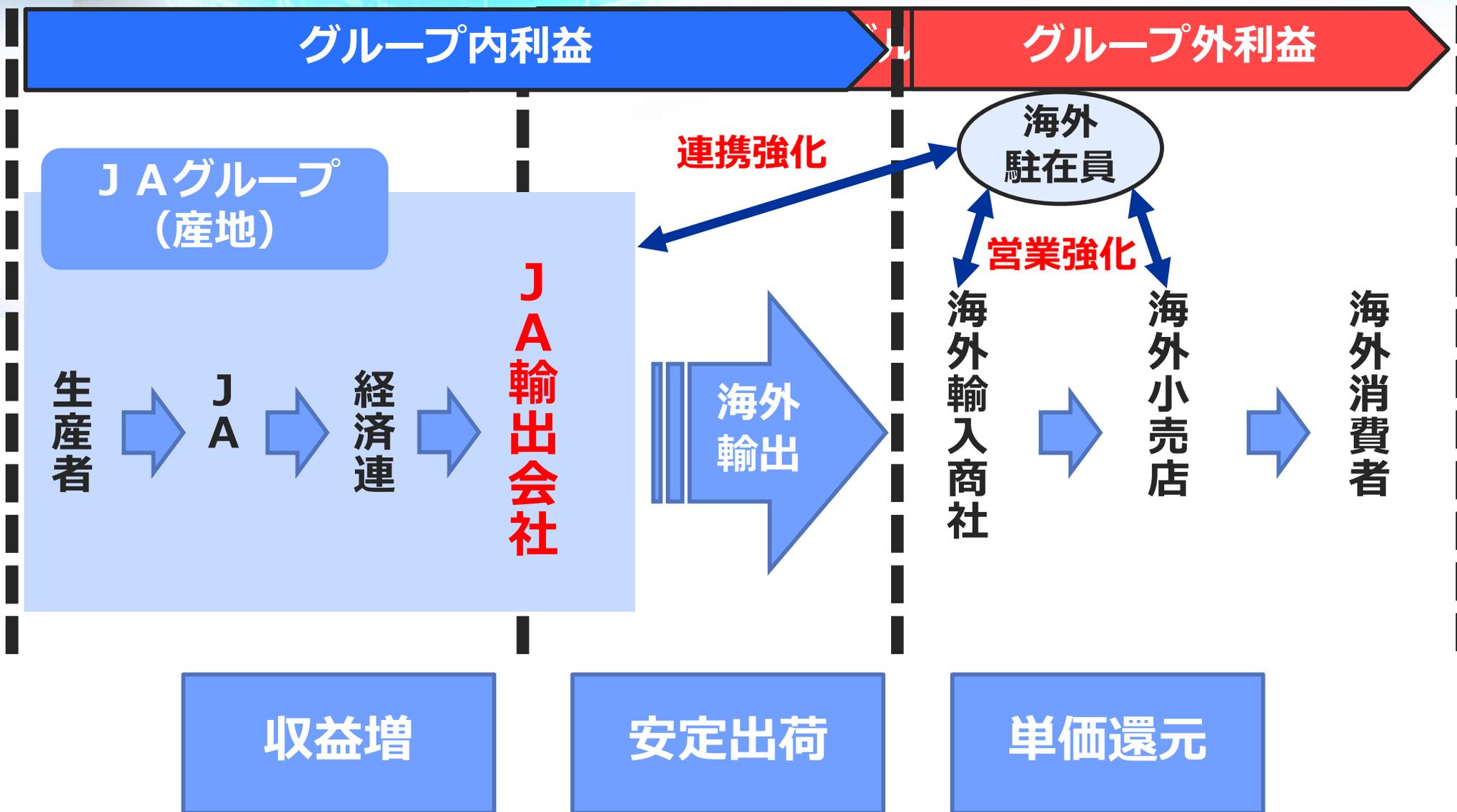
J Aグループは輸出が伸びない

解決策

- ① J A 直接輸出流通体制の確立
- ② マーケットインの輸出産地づくり

4. 具体戦略① J A 直接輸出

～輸出会社設立と海外駐在員配置～



5. 具体戦略②マーケットインの輸出産地づくり～



台湾の基準に沿ったいちご生産

① J Aの生産施設で
台湾の農薬基準で**実証栽培**



② 台湾向けいちご
栽培マニュアルの作成



③ 県内いちご産地に**普及拡大**



④ くまモン人気を活かした
台湾用資材の作成



⑤ 台湾向けブランドいちご
「KSMT」として輸出



6. まとめ



生産者



- ・所得増
- ・生産基盤の維持拡大

J Aグループ



- ・収益増
- ・国内の青果物単価も安定

海外消費者



- ・安定的な日本食材の確保
- ・質の高い食事

国内消費者



- ・未来の食料確保



K S M T

熊本の農を
世界へ
未来へと
届けます